

●公益事業（公益目的事業会計）

I 次代を担う青少年の健全な育成に資する事業（公1）

1. イオン チアーズクラブ

(1) 地域での活動

- ① 標 題：イオンチアーズクラブ通常活動
- ② 活動概要：各地域で小中学生が「環境・社会」をテーマに集団行動を通じて、社会のルールやマナーを学びながら、様々な問題を主体的に捉え、身近なことから行動に移せる力を育む機会とする。
各店舗、エリアが選択する形で、イオングループ国内420の事業店舗を拠点に活動。
- ③ 実施期間：2021年4月1日（木）から2022年3月31日（木）
- ④ 参加対象：日本国在住の小学1年生から中学3年生までの児童・生徒
- ⑤ 重点取組：参加クラブ数の増加（年間昨年対比102%目標）
1クラブあたりの年間活動回数の増加（全クラブ年2回以上）

*新型コロナウイルス感染拡大の現況に照らして上記本年度の目標を設定

- ① 標 題：イオンチアーズクラブ農業体験・ファーマーズプログラム
- ② 活動概要：単日の農業体験（農業体験プログラム）と、耕地、種蒔きから収穫までを一貫して行う活動（ファーマーズプログラム）を実施。
北関東エリア 3回
北陸信越エリア 2回
中四国エリア 1回 チアーズメンバー 44名が参加
- ③ 実施期間：2021年4月1日（木）から2022年3月31日（木）
- ④ 参加対象：イオンチアーズクラブに加入している小中学生
- ⑤ 重点取組：ファーマーズプログラムを全国11か所での開催を予定したところ、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって3エリアのみで実施。
連携農場の選定について、本年度も引き続き検討。

(2) エリア交流会

- ① 標 題：エリア交流会（壁新聞を使った交流）
- ② 活動概要：各地区大会の代表計50クラブが各9地域にて年間の活動内容を発表し、相互啓発。それぞれで活動テーマを設定し、通常活動（自宅での活動を含む）で手掛けた「壁新聞」づくりに示唆を与える体験プログラムやディスカッションを実施し、新たな気づきを促進する機会を提供することを目的に実施。新型コロナウイルス感染拡大の影響によって北陸信越エリアのみ、リアルとオンラインのハイブリッドで実施。
他の8エリアについては、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって実施を見送り、各エリアの入賞クラブのメンバーに図書カードを配布。
- ③ 実施期間：11月28日
- ④ 開催テーマ：「地域の食」
- ⑤ 実施場所：北陸信越エリアの六日町、高岡南、野々市南、佐久平を中継でつなぎ実施

2021年度事業報告書

- ⑥ 重点取組：身近でも知らないことを各地域で体験してもらうプログラムと各エリア内での交流を通じて、自己成長を感じてもらえるプログラムを作成。

2. 中学生作文コンクール

- ① 標 題：第4回イオン中学生作文コンクール（食と産業）
- ② 活動概要：全国の中学生を対象に、『「食品ロス」—もったいないを減らそう—』をテーマについて作文を募集。
事前のオンライン講義に基づき、応募者が自主学習を行い、その結果が文章に反映出来るようにする。各都道府県の教育委員会、こどもエコクラブ、イオン チアーズクラブ等を通じて全国の中学生へ告知し、表彰式・研修ツアーを開催し、全国654の中学校、7,952名の方から応募。
中学作文コンクール表彰式を11月20日（土）、オンラインにて開催。
各賞：金 賞 食育ツアーに招待・図書カード贈呈3万円（10名）
銀 賞 図書カード贈呈1万円（10名）
参加賞 図書カード贈呈1千円（100名）
後援：農林水産省
- ③ 募集期間：7月下旬～8月下旬（夏休み期間）
- ④ 参加対象：日本全国各地に在住の中学生
- ⑤ 重点取組：公的機関の取り組みとの連動を図り、当財団の活動内容の充実と認知度向上につなげる。

3. イオン エコワングランプリ

- ① 標 題：第10回 イオンエコワングランプリ
- ② 活動概要：全国の高校又は高校生が取り組んでいるエコ活動を募集し顕彰。
「普及・啓発部門」・「研究・専門部門」の2部門で募集を行う。応募内容を事例集として纏め、全国の高校に配布しエコ活動を普及。
今回は、92校から102点の活動が応募し、最終審査会では、10校の高校生を中継でつなぎ、オンラインにてプレゼンテーションによる発表を実施。
1) 「普及・啓発部門」・「研究・専門部門」の2部門で募集を行う。また、鳥の巣設置を呼び掛けイージーエントリー制で募る普及活動を推進。
2) SNSの活性化を推進し、エコの環スクール間の情報交換、好事例の共有等が頻繁に行われるような環境を築き、環境保全活動校の定着と拡大を図った。
3) 過年度受賞校の在校生及び卒業生の活動状況を調査しSNSにて紹介。
4) 昨年度グランプリ受賞校に地元の商業施設等で活動内容を発表してもらい、優れたエコ活動の普及推進を図る。なお、会場については、一般の方々が傍聴参加できる形式とし、当活動の一層の周知を図った。
共催：毎日新聞社、（公財）イオン環境財団
後援：内閣府、文部科学省、環境省
協力：全国高等学校長協会、（公財）産業教育振興中央会
特定非営利活動法人 持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）
- ③ 実施期間：2021年6月～9月 募集
2021年 10月 1次選考

2021年度事業報告書

2021年 11月9日 2次選考

2021年 12月4日 最終審査会&表彰式

- ④ 参加対象：日本国内の全国の高等学校または生徒
- ⑤ 重点取組：1) 全国主要都市にてエリアミーティングを開催し、エコの環スクール間の情報交換や自校の環境保全活動レベルの底上げを図る目的。本年度は、7月中～下旬、8月下旬の2回（仙台、岡山）の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって中止。
2) 過去、及び前年のグランプリ受賞校の活動内容の紹介を本年度の募集に先立って行い、この取り組みの理解を深めるとともに、ホームページを活用した新たな募集を実施。

4. 学校建設支援

- ① 標 題：ミャンマー学校交流事業
- ② 活動概要：2012年から2020年までの9年間で66校の建設支援を行ってきたが、未だに同国の地方各州には支援が及んでいない状況にあり、2021年度も未実施のため、募金活動は中止。
本事業で2012年から2015年に建設支援を行った東部カレン州コーカレイ村の小学校について（公財）日本ユニセフ協会と連携し、教員研修の支援を実施。
- ③ 重点取組：芝・増上寺で開催されるミャンマー祭り、あるいは在日ミャンマー大使館で、贈呈式を実施。（予定）

5. イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

- ① 標 題：イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン
- ② 活動概要：カンボジア、ミャンマーにおいて、汚れた水や衛生環境は、子どもたちの命に関わる重大な問題の一つである。また、学校建設支援を進めてきた地域では、小学校高学年（4年、5年）になると、学校での欠席率が上昇。その理由は水汲みを中心とした家事手伝いであり、しかもその多くは、不衛生な水であり、健康・衛生面からも改善が急務。本キャンペーンを通じ、そうした子どもたちが暮らす村や町に、給水施設を設置していくことで、子どもたちを教育面、健康面から支援。
- ③ 実施期間：2021年4月10日（土）～2021年5月9日（日）
- ④ 対象地域：カンボジア：コンボンスプー州、ラタナキリ州、スヴァイリエン州、
タケオ州
ミャンマー：カレン州

以下の内容で全国募金を実施。

募金活動名	：イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン
実施場所	：イオングループ店舗及び事業所約9,000カ所
贈呈先	：公益財団法人 日本ユニセフ協会
募金目的	：カンボジア、ミャンマーにおける給水施設支援
店頭募金	：1,980万5,578円
拠出金	：1,080万3,793円
天然水	：900万1,785円（1本当たり5円）
寄付金総額	：3,961万1,156円

2021年度事業報告書

- 募集理由 : 水汲みを中心とした家事手伝いに追われて学校を欠席しがちな子ども達が暮らす村や町に、給水施設を設置することで、子どもたちを教育面、健康面から支援。
- 資金使途 : 全額給水施設支援に充当
- その他 : 募集総額に当財団が一定額を上乗せ加算し、給水施設支援に充当。

- ⑤ 重点取組 : カンボジア大使館で贈呈式を実施。

II 諸外国との友好親善の促進に資する事業 (公2)

1. 高校生国際交流

(1) 日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー

- ① 標 題 : 日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー
- ② 活動概要 : 日本と中国の高校生が相手国を相互訪問し、表敬活動、交流活動、歴史・文化活動を通じて価値観の多様性を認識すると共に、国際的な相互理解、親交を深める。「日中文化・スポーツ交流推進年」事業として外務省に認定申請の上、両国友好関係の強化に寄与すべく交流を促進する計画のところ、新型コロナウイルス感染拡大により中止となりました。

(2) 日本 アセアン ティーンエイジアンバサダー

- ① 標 題 : 日本 アセアン ティーンエイジアンバサダー
- ② 活動概要 : 日本とアセアンの高校生が相手国を相互訪問し、表敬活動、交流活動、文化・歴史理解活動を通じて、価値観の多様性を認識すると共に、国際的な相互理解、親交を深める。又、海外の訪問先での日本人組織との交流を通じて相手国の文化や価値観をより多面的に理解し、双方の友好親善の促進を図る計画のところ、新型コロナウイルス感染拡大により中止となりました。

2. アジア ユースリーダーズ

- ① 標 題 : アジア ユースリーダーズ
- ② 活動概要 : 日本を含むアジア8カ国の高校生が各国に共通する環境・経済・社会の問題について英語でディスカッション・発表を行う。価値観の多様性の理解、同世代の人的ネットワーク構築、問題解決に向けた論理展開力の錬成により、次代を担うグローバルリーダーに必要な資質を身につけることを目指し、2021年度は日本での開催を計画のところ、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって各国からの訪日が難しいことから、オンラインに切り替えて実施。
- ③ 実施期間 : 12月20日(月)から22日(水)
- ④ 参加対象 : 日本23名、カンボジア7名、ラオス7名、中国7名、マレーシア7名、タイ7名、インドネシア7名、ベトナム7名 計72名
- ⑤ テーマ : 「食品ロス削減の視点で考える食の未来づくり」
- ⑥ 重点取組 : テーマは、「食品ロス削減の視点で考える食の未来づくり」
新規3か年計画の第1弾は「食品ロス」

2021年度事業報告書

3. イオン スカラシップ（奨学金）

(1) 日本での奨学金

① 標 題：イオン スカラシップ（国内）

② 活動概要：日本で学ぶアジア各国からの留学生への奨学金支給
授与式と集合研修を実施し、各自の夢の実現に向け奨学生同士のネットワーク
形成と、価値観の多様性を理解し受容する素地を醸成。
2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大によって、認定証授与式及び
スカラシップセミナーはいずれもオンラインにて開催。

【支援内容】1名につき、授業料の全額、及び生活費補助10万円（月額）
を支給。給付期間は原則として2年間。その他、イオンスカラ
シップ生を対象としたセミナーを実施。

③ 支援期間：2021年4月1日～2022年3月31日の1年間

【選考方法】各大学から推薦された候補学生の中から、外部選考委員による
委員会にて決定。但し、国際大学は「渡日前選考方式」により
奨学生を決定。

7月17日（土）イオンタワー3F多目的ホール（オンライン開催）

11月27日（土）千葉県九十九里浜植樹体験（オンライン開催）

1月15日（土）就活応援セミナー（オンライン開催）

2月18日（金）イオンスカラシップ修了式（オンライン開催）

④ 対象大学：北海道大学、東北大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、早稲田大学、
上智大学、慶應義塾大学、国際大学、名古屋大学、京都大学、神戸大学、
流通科学大学、九州大学

計14大学 新規31名、継続30名 計61名

うち、2021年度渡日できなかった下記4名は奨学金のみ支給

4月認定：東京大学2名（中国）、

9月認定：国際大学1名（ベトナム）

10月認定：神戸大学1名（ベトナム）

認定時から渡日できなかった下記2名は奨学金と1か月分の生活費を支給

4月認定：上智大学1名（ベトナム）2022年3月渡日

9月認定：国際大学1名（インドネシア）2022年3月渡日

⑤ 重点取組：中国・アセアンにおける提携大学での受給生、もしくは在学生の日本留学
ニーズについて掘り起こし、新たな支援につなげる取り組みを実施中

(2) 中国での奨学金

① 標 題：イオン スカラシップ（中国）

② 活動概要：中国国内で学ぶ大学生への奨学金の支給。

11月～12月の間に各大学で奨学金授与式を実施。奨学金の一環として、
6月に当財団の冠名で、北京大学、中国海洋大学、青島大学、深圳大学、
清華大学、武漢大学で日本語スピーチコンテストを開催。上位入賞者は
2022年度に日本研修を実施予定。また、11月に北京第二外国語学院の全
国通訳大会の協賛、在中国日本大使館が主催する北京で暮らす日本人留
学生と同世代の北京市大学生が「20歳」になることを祝い、交流する「日
中友好成人式」も協賛。

2021年度事業報告書

③ 実施期間：(1)スピーチコンテスト

青島大学：5月20日(木)
武漢大学：5月23日(日)
中国海洋大学：5月27日(木)
深セン大学：6月8日(火)
北京第二外国語学院：6月9日(水)
清華大学：9月30日(木)
北京大学：11月6日(土)

(2)奨学金支給期間

2021年 9月 1日(水)～2022年8月31日(水)

(3)奨学金認定証授与式

清華大学：9月30日(木)
深圳大学：12月3日(金)、
青島大学・南開大学：12月10日(金)、
北京大学・北京第二外国語学院：12月17日(金)、
中国海洋大学：12月23日(木)
武漢大学：新型コロナウイルス感染拡大によって延期

④ 参加対象：(1)奨学金対象大学：

北京大学、清華大学、北京第二外国語学院、南開大学、青島大学、
中国海洋大学、深圳大学、武漢大学 計8大学

- ⑤ 重点取組：・本奨学金事業の一環として各大学で開催しているスピーチコンテストの
上位入賞者の中で、日本で学びたいが経済的な理由で学ぶことができ
ない(中国人)学生について支援を行う。
・渡日前選考の方策について、並行して検討

(3)アセアンでの奨学金

① 標 題：イオンスカラシップ(アセアン)

② 活動概要：アセアン各国内で学ぶ大学生への奨学金の支給。各国12月を目途に授与 式を実施。当財団の事業が奨学生の住む地域で実施された場合に参加を 要請し、友好親善を促進

③ 実施期間：学生選考9月～12月(*各地域の新学期開始時期に合わせる)

【選考方法】各国ともに、各大学からの推薦を受けて選考

④ 対象大学：国別大学名および支援内容

タイ：給付人数 32名

チュラロンコーン大学16名、タマサート大学16名

認定証授与式：11月19日(金)

ベトナム：給付人数 100名

ホーチミン人文社会科大学10名

ホーチミン教育大学 10名

ホーチミン経済大学 20名

認定証授与式：11月17日(水)

2021年度事業報告書

ハノイ人文社会科大学 20名
ハノイ貿易大学 20名
ベトナム国家農業大学 20名
認定証授与式：11月24日（水）
インドネシア：給付人数 24名
インドネシア大学12名、ボゴール農科大学12名
認定証授与式：11月29日（月）
カンボジア：給付人数 24名
王立プノンペン大学11名、国立経営大学12名
認定証授与式：2月22日（火）

ミャンマー：給付人数 120名
ヤンゴン経済大学は国勢状況により、奨学金対象者選考のための事務的協力が得られなかったため中止
ヤンゴン外国語大学55名に対し、イオンオレンジ本社事務所での手渡し、あるいは電子マネー（Kペイ）送金による給付を実施

- ⑤ 重点取組：ミャンマーについては、昨年に予定していたMOU改定が新型コロナウイルス感染拡大により1年ずれ込み。上記2大学間の支給額格差是正や大学ごとの支援人数、対象学年などに関する見直しを行う。

Ⅲ 地域社会の持続的発展に資する事業（公3）

1. 災害復興支援

(1) 緊急災害復興支援

① 標 題：緊急災害復興支援

② 活動概要：国内外で発生した大規模自然災害に対する復興支援。復興支援金の贈呈式を実施。

ウクライナ子供救済支援金	100,000,000円	日本ユニセフ協会
コロナワクチン接種支援金	20,000,000円	ベトナム政府
コロナワクチン接種支援金	10,000,000円	カンボジア政府
コロナワクチン接種支援金	20,000,000円	マレーシア政府
コロナワクチン接種支援金	10,000,000円	タイ政府
コロナワクチン接種支援金	10,000,000円	インドネシア政府
新型コロナ医療従事者支援	37,527,596円	全国28自治体

(2) 首里城復興支援

① 標 題：首里城復興支援

② 活動概要：2019年10月31日未明に発生した大規模な火災により、甚大な被害を受けた世界遺産の首里城（沖縄県那覇市）の再建を支援。復興支援金の贈呈式を実施。

10月18日、沖縄県に復興支援金1億円を贈呈（5か年計画の2年目）

2. ふるさと未来支援

(1) 地域文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援

① 標 題：地域文化・伝統工芸技術の普及啓蒙・継承支援

2021年度事業報告書

- ② 活動概要：日本各地の地域固有の伝統行事・文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援。特に後継者育成に向け、青少年向けの広報・実技披露活動等を支援。支援案件は公募に申込みがあった案件の中から、外部委員による選考委員会にて決定。
(支援条件)
 - 1) 当該地域固有の伝統文化・工芸技術であること。
 - 2) 特定企業の従業員の参加を補助するものでないこと
- ③ 実施期間：2021年4月1日(木)から2022年3月31日(木)までの行事、文化継承事業
- ④ 参加対象：日本国内の行事・文化継承事業運営者、ならびにその団体
- ⑤ 団体数：31団体
- ⑥ 重点取組：該当支援事業内での弊財団の取り組み紹介の強化

(2) イオン すくすくラボ

- ① 標 題：イオンすくすくラボ
- ② 活動概要：各地域の子育て世代の親子を対象に、育児に関するセミナーの開催や個別相談と古き良き日本の童謡・唱歌の継承を目的としたコンサートの二部で構成。二部では、参加者に近隣の幼稚園児を加え、活動を強化を図る予定のところ新型コロナウイルス感染拡大によって中止。
(内容)
第一部：子育てセミナー 第二部：童謡・唱歌コンサート
- ③ 実施期間：中止
- ④ 参加対象：開催地域内の未就園児(0～3歳児)とその家族
- ⑤ 重点取組：セミナー単独形式の事業パターンも実施を検討

(3) イオン ふるさと発見伝

- ① 標 題：イオンふるさと発見伝
- ② 活動概要：中学生に向け、神社や名所旧跡などを舞台に女優 浅野温子氏による地域民話の読み語りを実施。行政・教育委員会と連携し、参加中学校の授業の一環として開催。2012年に東北の復興支援事業として開始、2015年より開催地域を全国各地に拡大の予定のところ新型コロナウイルス感染拡大によって中止。
- ③ 実施期間：2021年度は1回実施。開催場所は、福島県内を予定のところ中止。
- ④ 参加対象：開催地域の中学生(*状況により小学生・高校生・地域住民を含める場合あり)
- ⑤ 重点取組：幅広い地域行政との連携を確立(*県、市区町村)

3. 公益団体への支援

(1) 青少年育成活動団体への支援

- ① 標 題：札幌PMFの支援
- ② 活動概要：公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会へメインスポンサーとして協賛。
- ③ 実施期間：2021年夏季(*詳細は未定)
- ④ 支援対象：公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会

2021年度事業報告書

コンサート開始直前に札幌PMFスタッフにコロナ罹患者が出たことから中止。開催準備は進めていたため協賛は実施。

- ① 標 題：セイジ・オザワ松本フェスティバルへの支援
- ② 活動概要：セイジ・オザワ 松本フェスティバルを支援。当財団はプラチナ会員。
- ③ 実施期間：2021年夏季（*詳細は未定）
- ④ 支援対象：公益財団法人 サイトウ・キネン財団
新型コロナウイルス感染拡大が収束しなかったため直前に中止。開催準備は進めていたことから協賛は実施。

(2) アジア障がい者支援募金

- ① 標 題：アジア障がい者支援募金
- ② 活動概要：社会保障制度が未発達なアジアの国・地域では、身体的障がいにより、教育を受けることができなかつたり、仕事に就くことができない、若い障がい者が大勢いる。
本事業では、こうした障がい故に貧困に陥っている若者の自立を支援する団体等に対して支援を行うことで、貧困がもたらすさまざまな社会問題の解決に取り組む。
- ③ 実施期間：2022年1月11日（火）～2月10日（木）
- ④ 支援対象：身体的障がいを有する人々の1日も早い社会復帰、自立に向け、以下の活動を支援
 - ・学校に通うための車イスの寄贈
 - ・職業訓練の実施対象国は、ラオス、ミャンマー、カンボジアを中心とする予定。
以下内容で全国募金を実施。
募 金 活 動 名：アジア障がい者支援募金
募金受付方法：ホームページ、及び、募金実施協力事業所での募金受付。
贈 呈 先：認定NPO法人「難民を助ける会（AAR Japan）」
《募金詳細》
募金目的：身体的障がいをもつ人々の社会復帰を支援する組織、団体の支援。
募金総額：25,071,480円
当財団拠出金：25,071,480円
合計金額：50,142,960円
募金理由：我が国が存するアジア各国では、こうした教育の貧困が生活貧困に連鎖している人々が多くいることを知ってもらい、一人でも多くの方に支援を呼びかける。
資金使途：認定NPO法人「難民を助ける会」を通じ、障がいをもつ人々を支援
そ の 他：募集総額に当財団が一定額を上乗せ加算し、障がい者支援に充当。
- ⑤ 重点取組：贈呈式には各国大使館代表者にも参加を呼びかけ、活動内容を報告。

●その他事業（法人会計）

1. 広報活動

(1) 概要書及びDVD

- ① 標 題：概要書制作
- ② 活動概要：イオン1%クラブの創設趣旨や事業目的に重点を置き、象徴的な写真を見開きで見せることで、事業内容をわかりやすく伝えるもの。英語版・中国語版も制作。配布先・設置先の拡大を図る。
- ③ 実施期間：2021年4月1日（木）～2022年3月31日（木）
- ④ 配布対象：事業参加者、学校関係、各国大使館、各省庁、NPO・NGO、取引先、寄付企業、マスコミ他
- ⑤ 重点取組：昨年度のトピックを盛り込みつつも、当財団の創設趣旨や事業目的が正しく伝わるよう紙面内容を構成し、かつ、スマートフォンで見やすいレイアウトに変更する。

(2) ホームページ

- ① 標 題：ホームページ更新
- ② 活動概要：タイムリーな更新を図り、更新頻度を高めることで、ページ訪問者の滞在時間を延ばし、各事業の報告ページのPV（ページビュー）数を高める
- ③ 実施期間：随時
- ④ 参加対象：ネット閲覧可能者
- ⑤ 重点取組：Facebook、LINE、Instagramと連動を図りホームページ訪問者を増やすWordPress（ホームページ更新用ソフト）をトップページのみ導入から全ページに導入し、アウトソーシングからインソーシングに変更することで、コスト削減と更新のスピード化を図る

(3) 外部イベント参加費

- ① 標 題：イベント出展を通じたPR活動
- ② 活動概要：各国のフェスティバル、NGOや社会貢献活動団体等を対象としたイベント等に出展し、当財団の活動PRを行う
- ③ 実施期間：2021年4月1日（木）～2022年3月31日（木）
- ④ 参加対象：イベント参加者、各国大使館、各省庁、NPO・NGO等
- ⑤ 重点取組：大使館や各省庁が主催するイベントへ参加することで連携強化を図る

2. 寄附及び協賛

(1) アジアの祭典

3. 団体会費

- (1) ジャパンプラットフォーム会費
- (2) 公益財団法人花と緑の農芸財団 会費
- (3) 公益財団法人公益法人協会 会費

以上